



梅雨後半の高温多湿により、輪紋病・炭そ病等主要病害の果実感染拡大が心配されます。この期間は特に予防散布を徹底してください。また、ここまでの少雨・乾燥状態によりハダニ類の早期多発が心配されます。密度が低いこの時期から防除を徹底してください。

## りんご 7月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期：7月 1 日～5 日

散布薬剤：水	1 0 0 リットル
展着剤	1 0 ml
コロマイト乳剤	1 0 0 ml （前日、1 回）
劇物 バイスロイド EW	5 0 ml （7 日前、4 回）
ナリアWDG	5 0 g （前日、3 回）
スイカル	1 0 0 g

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

↓ 散布日：7 月 日

↓ 散布量 リットル

### ◆ 注意事項

- ① 殺ダニ剤の効果を高めるために、徒長枝切りや下草除草を薬剤散布予定の 3～4 日前に実施する。
- ② 薬液が園全体にタツプリかかるように散布し、死角がないように注意する。過繁茂状態の園では、徒長枝切り等の管理を散布前に実施する。
- ③ バイスロイド EW は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- ④ ナリアWDG は、ピオーネ・サニールージュ等に薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
- ⑤ カルシウム剤「スイカル」の 1000 倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。

### ◆ 褐斑病対策

褐斑病の発生が心配される場合は、トップジン M 水和剤 1500 倍（前日、6 回）を加用する。

### ◆ 輪紋病・炭そ病対策

輪紋病・炭疽病の発生が心配される場合は、IC ボルドー412 の 33 倍を 6 月末～7 月初旬に特別散布する。ただし、つがる等の早生種にはボルドー液は散布しない。

◆ りんご 7 月中旬の特別散布及び次回薬剤散布情報は裏面をご覧ください。

梅雨後半は、輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重要防除期です。急激な高温多湿で病害の感染が一気に拡大する恐れがあります。輪紋病・炭疽病・褐斑病の発生が心配される園では、今回の特別散布を実施し、病害の予防に努めてください。

りんご

## 7月中旬の特別散布

散布日：7月 日

散布量 ㍓

◆ 散布時期：7月8日～12日 \*注意事項①参照

◆ 散布薬剤：水 100㍓

展着剤 10ml \*注意事項②参照

オーソサイド水和剤80 125g (14日前、6回) \*注意事項③参照

◆ 散布量：10a当り 600㍓

◆ 対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、(ハダニ類)

### ◆ 注意事項 \*必ずお読みください。

- ① 輪紋病・炭疽病・褐斑病対策の特別散布です。前回から7日後を目安に散布する。
- ② 通常展着剤(ハイテンパワー等)に代えて、固着性展着剤のアピオンEの1000倍(100㍓に100ml)を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ③ オーソサイド水和剤80に代えて、オキシラン水和剤500倍(14日前、4回)でもよい。
- ④ 薬液が園全体にタツプリかかるように散布し、死角がないように注意する。過繁茂状態の園では、徒長枝切り等の管理を散布前に実施する。
- ⑤ ハダニ類の発生が多い場合は、7月中旬(第9回)散布予定のダニゲッターフロアブル2,000倍(前日、1回)を繰り返して今回の薬剤散布に加用する。尚、ダニゲッターフロアブルは開花期の水稻に飛散すると不稔等の薬害を生じる場合があるので注意する。

### ◆ 次回の定期薬剤散布は、7/15～20頃の予定です。

ハダニ類やシンクイムシ類の重要防除期です。梅雨明け7日以内に確実に散布するように予め計画してください。

### 農作業中の事故にご注意ください！

- ① ハシゴは、チェーンやひも等でしっかりと止め、開かないように使用してください。
- ② ハシゴの最上段に上って作業は行わないようにする。
- ③ 梅雨期間は、地盤が緩みます。傾斜地でのハシゴやSSの走行等に十分注意してください。